

企業代表を引き継いで

川上善之

TARA プロジェクトから長く構造生物坂部プロジェクト(SBSP)を支えてこられた畠忠さん(元三共)の後を引き継いで今年度から企業代表になりました。畠さんが代表を務められた8年間は、現場の研究者が研究に集中できるような素晴らしいシステムを坂部先生をはじめとする先生方と共に作られました。私も畠さんをついでこのよき環境を維持すると共に、今後更なる発展を目指したいと思います。

さて、1995年SBSP発足以前は企業研究者が思うように放射光施設を使ってX線結晶構造解析実験が出来るようになるとは誰も想像していなかったと思います。SBSPの活動が日本の構造生物学に与えた影響は大きく、蛋白3000やStructure-Based Drug Design(SBDD)の振興に多大な貢献をしたものと考えられます。また、SBSPを利用することにより各社成果を上げたことで、SPring-8に日本製薬工業協会が専用ビームラインを建設し、22社の参加企業を得て、2001年6月に蛋白質構造解析コンソーシアムを設立するという流れを作ったことは記憶に新しいでしょう。知的財産権に深く関わる成果の独占に関しても、企業が独占できるような配慮がなされていることは、他の公共施設運営に大いに参考にされていることが物語っています。さらに、Webを利用したビームタイム予約システムや、直前の予約とキャンセルへの対応など柔軟性に富んだ運営は誠に素晴らしいと思います。

ところで、SBSPは今年が10年目の節目の年を迎えました。平成7年TARA坂部プロジェクト(企業10社参加)からはじまり、平成11年度には最大の15社の参加があり、現在11社となっています。この理由は、企業の合併、研究員の異動、SPring-8製薬協蛋白構造解析コンソーシアム(蛋白コンソ)などで参加企業が減じたものです。また、SPring-8やKEK NW12、BL-5ビームラインといった強力なビームラインの出現と、実験室型高強度X線回折装置の市販化などでBL-6を利用した実験の有効性が薄らいできているように思います。実際BL-6Bに空きが目立つようになってきました。今年度は何とかビームラインの使用権を確保できましたが、来年度以降は全く予断を許さない状況におかれています。今までは坂部先生のご尽力により企業にとってはこの上ない条件でビームタイムを占有できていましたが、今後いつまでこの状況を保てるのか心配になってきました。

また、KEKの独立法人化などに関連した新たな課題が出てきています。KEKでは法人化に伴い産学連携を目指した共同研究を推進しており、この分野を若槻先生率いる構造生物学研究センターに集約する方向にあります。構造生物学研究センターでは高フラックスビームラインについても産業利用を図るだけでなく、タンパク質発現、精製、結晶化、構造解析についての共同研究、委託研究のシステムの構築を目指しているそうです。さらに、構造生物関連の新規ビームラインを全て集中管理する構想のようです。実際、NW12・BL5という高性能ビームラインは、現在、若槻先生の管轄となっています。

KEKは今後「構造生物学研究センター」での活動に注力することは間違いなく、SBSPが消滅する可能性も出てきました。SBDDの立ち上げにおいてSBSPの果たした役割は大きかったのですが、ある意味では所期の目的は達成し次のステップに進み出さねばならない時期に来たとも言えます。

坂部先生が切り拓いてこられた構造生物学の研究拠点であるSBSPをどうやって守り、発展

させるか、企業運営委員の方のみでなく学界の委員の方にも参加していただいて方向を決めていければと思っています。これまでは全てを坂部先生に頼りっぱなしで来ましたが、今後は我々自身で行動をしなければいけないのではないかと考えています。メンバーの皆さんとよく話し合っ、そして坂部先生にご相談して、これからの活動を決めたいと思います。企業代表としてメンバーの皆様の意見を尊重して、SBSP 活動を発展させるべく誠心誠意つとめていきたいと思っています。これからも皆様のご指導、ご協力をお願いします。

以上

